

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 26日

事業所名 セカンドプレイス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	・感情コントロール面で崩れた児童に対し落ち着く部屋を設けている。	
	2	職員の配置数は適切である	6			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		・記録の際に活用している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		・セカンドプレイスのホームページを公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・研修会がある。 ・RISEとの交換研修を実施。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	・SM社会生活能力検査	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	・その日出勤者全員で行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		・話し合いをして工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1	・平日や長期休暇は個々の問題解決に向けてアプローチしている。	・休日の振り返り等子どもたちの課題設定をしたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		・活動前に支援内容、スタッフの動きなど確認している。また、気になる児童をピックアップしたり関わりの多いスタッフが意見を出す機会を設けている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	・当日は難しいことが多いが、後日振り返りを行えるよう努力している。 ・翌日の活動前の話し合いで再検討を行う。 ・関わる人数も多いため連携を図る目的もあり頻度を増やして行っ	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		・6ヶ月に1回参加。必要に応じて相談支援員へ連絡。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	1		・ガイドラインを意識的に見るよう今後努力したい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2	・シフトの関係で相応しいもの以外が参加する場合もあるが、情報収集を会の前に行い、必要な情報をまとめている。	・勤務状況で難しい場合がある。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		・下校時刻に関してはLINEにて情報共有している。 ・下校時間は保護者様と週末に連携を図っている。	・学校と連携を取る場面がもう少しあっても良いと感じる。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	—	—		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	・移行支援シートの確認や放課後等デイサービスへの切り替え時の担当者会議にて情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	2		・また、対家者がいい。 ・まだ、高校卒業児との関わりがないため事例はないが、その時のための移行へのシートの準備はできている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	・公開療育、グループ会議への参加。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	3	・児童クラブとは送迎時に接点あり。	・地域行事の参加を促していきたい。 ・今後計画していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	3	・役職者が参加し後日報告がある。 ・グループ会議への参加。	・協議会への参加の機会がないように感じる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・送迎時やイベント交流時に共通理解や課題の再確認を行う。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2		・ペアレントトレーニングへの意識ではなく保護者様への家族支援としての意識の方が大きく感じる。 ・ペアレントトレーニングの研修参加ができていない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			・保護者様からの悩みはスピード感を持って意識的に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	3	・事業所主催で保護者様と子どものイベントを行う。	・今後機会を作っていきたい。 ・保護者様参加型のイベントを広げ繋がりを広げていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		・朝礼や昼礼にて情報共有できている。 ・対応できている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1	・インスタグラム等を活用し情報発信している。 ・長期休暇等のスケジュールは紙面して情報共有し見直しをつけている。	・定期的ではないため、今後定期的に行えるように実施していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	6		・カルテや書面の管理の徹底。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3		・今後地域とつながることを計画していきたい。 ・地域を巻き込む手段を考えていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6		・半年に一回の避難訓練の実施	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		・半年に一回の避難訓練の実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2		・「虐待」のみのテーマでの研修はない。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		・契約時に説明し理解を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4	・フェイスシートの確認	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・ヒヤリハットの書式記入を行い報告と回覧している。	